

# 令和6年度 第1回広島市感染症対策協議会

【日 時】 令和6年4月17日（月）19:00～20:00

【場 所】 広島市役所 14階第7会議室

【出席者】 小林 正夫、坂口 剛正、大毛 宏喜、石川 暢久、吉岡 宏治、高橋 宏明、佐藤 貴、  
金子 朋子、平賀 正文、増田 裕久、梶梅 輝之、長岡 義晴、岡野 里香、阿部 勝彦

## 1 感染症に関する最近の情報

### (1) 国内の麻しんにおける発生状況について（資料1 P1～18）

3月以降、海外からの輸入症例や当該患者からの二次感染が疑われる事例等、全国で麻しん患者の発生が相次いで報告されており、2024年は第12週（3月18日～24日）までに累計21件の報告があった。

麻しんの感染力は非常に強く、飛沫感染、接触感染だけでなく、空気感染でも感染するため、広域的に患者が発生するおそれがある。

麻しんを予防するためには2回の予防接種が有効であるため、本市ではホームページやSNS等を通じて、海外渡航の際には麻しんの予防接種歴を確認し、2回の接種記録がない場合は、渡航前に予防接種を受けることを検討するよう呼びかけている。

本市としては、人の移動が活発化するゴールデンウィークを迎えるに当たり、今後の発生動向について注視していくとともに、市民に対し、引き続きホームページ等で感染予防対策の周知徹底を行うこととする。  
（委員意見）

- ・ 内科・小児科等へのMRワクチンの供給が追いついていないことから、ワクチン供給に係る優先順位について改めて整理する必要がある。
- ・ 今後の発生動向について注視していく必要があり、本市においても疑い事案が頻発するようであれば、医療体制を強化する必要がある。

### (2) 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）ウイルスの患者から医療従事者への感染事例について（資料1 P19～43）

厚生労働省から、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）について、本邦で初めてとなるSFTSウイルスのヒト-ヒト感染（患者から医療従事者への感染）事例が確認されたとの報告があった。

「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）診療の手引き 改訂新版2019（以下、「手引き」という。）」によると、SFTS患者の診療における医療現場での个人防护具使用については、粘膜を保護するマスクやアイガードに加えて、血液や体液で汚染されやすい手指や体幹前面には、二重手袋とエプロンの装着が推奨されている。中国と韓国から報告された医療従事者の感染事例においても、アイガードの不使用による結膜からの感染が否定できないとされている。また、心肺蘇生術や気管挿管などエアロゾルの発生し得る行為に際しては、N95マスクの装着が望ましいとされている。

本件の聞き取り調査からは、患者から医師への感染が成立した機会として2つの可能性が指摘されている。1つ目は初診救急外来にてサージカルマスクのみ装着して行った診察時であり、2つ目は死後処置時である。特に死後処置時には、医師は一重手袋、ガウン、サージカルマスクは装着していたが、アイガードは使用していなかった。

今後、血液が飛散する可能性がある処置を行う場合は、目の防護（フェイスシールドやアイガードなど）も行うなど、感染予防対策の徹底について医療従事者への注意喚起が必要である。

（委員意見）

- ・ 診療する血液内科等においては、十分な感染予防対策を講じる必要がある。

(3) 新型コロナワクチン接種について (資料 1 P44~61)

- ・令和 5 年秋開始接種（令和 5 年 9 月 20 日～令和 6 年 3 月 31 日）は終了した。
- ・令和 5 年秋開始接種の接種回数は 253, 446 回、うち高齢者は 169, 643 回（接種率 55. 0%）（令和 6 年 3 月 31 日現在）
- ・予防接種法施行令が一部改正され、新型コロナウイルス感染症を予防接種法の B 類疾病に位置づけた上で、定期接種として実施することとなった。対象者は、(1)65 歳以上の者、(2)60 歳以上 65 歳未満の者であって、心臓、腎臓若しくは呼吸器の機能の障害又はヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能の障害を有するもの、と定められ、令和 6 年 4 月 1 日から施行されることとなった。
- ・国は令和 6 年度の定期接種用に供するワクチン代について各メーカーから希望小売価格を聴取し、11, 600 円程度に見直した。（昨年末時点では 3, 260 円と想定）
- ・これにより、昨年度末に示した接種費用（7, 000 円）から超過が見込まれるため、超過部分について国が市町村に助成することとなった。

(委員意見)

- ・ 医師会等と協議し、できるだけ早い段階で自己負担額等を示していただきたい。

## 2 3月の定点把握対象感染症発生状況《公開》(資料2、3)

※感染症法に定められた感染症のうち、指定された医療機関のみが報告を行う感染症

区分	病名	令和6年3月分	令和6年4月分
		報告日 3/4~3/31	報告日 4/1~4/11 現在
2類	結核	6人 (結核5人、潜在性結核1人)	2人 (潜在性結核2人)
3類	腸管出血性大腸菌感染症	2人(3/6, 3/12)	
4類	A型肝炎	1人(3/25)	
	レジオネラ症	1人(3/7)	1人(4/2)
5類	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	1人(3/11)	
	急性脳炎	1人(3/4)	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2人(3/18, 3/19)	1人(4/10)
	ジアルジア症	1人(3/19)	1人(4/11)
	侵襲性肺炎球菌感染症	2人(3/11, 3/18)	
	梅毒	18人(2人(3/4), 3/5, 3/6, 3/7, 2人(3/11), 3/12, 3/13, 2人(3/14), 3/18, 2人(3/19), 3/21, 3/25, 2人(3/27))	2人(4/1, 4/8)
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1人(3/26)	
	百日咳	1人(3/25)	

## 3 全数把握対象感染症の発生状況《公開》

( )は届出日

## 4 その他《公開》

次回開催予定日 令和6年5月20日(月) 14階第7会議室

### 【資料】

資料1：最近の感染症情報

資料2：3月の感染症の概要

資料3：定点把握五類感染症(月報対象)の長期的変動

## 1 患者情報

### (1) 概要

定点からの内科・小児科・眼科系疾患の患者報告数は、3月は3,583人で、前月比0.60と減少した。

RSウイルス感染症は大きく増加、突発性発しんは増加、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎はほぼ横ばい、感染性胃腸炎、手足口病はやや減少、インフルエンザ、咽頭結膜熱、流行性角結膜炎は減少、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は大きく減少した。

### (2) 特記事項

- インフルエンザは、減少が続いており、第14週（4月1日～4月7日）には定点当たり3.86人となった（図1）。新学期が始まると、報告数が増加傾向になることもあるため注意が必要である。引き続き、咳エチケット、手洗い、換気などの対策を徹底することが大切である。
- RSウイルス感染症は、第14週に定点当たり1.14人の報告があった（図2）。以前は夏から増加傾向となり秋にピークがみられていたが、2021年以降は流行時期が早くなる傾向であり、特に今年は第9週（2月26日～3月3日）から増加傾向となった。生後6カ月までの乳児が初感染した場合は重症化しやすいため、おもちゃや手すりなど手の触れる部分の消毒、手洗いや咳エチケットの励行などの感染予防対策が重要である。

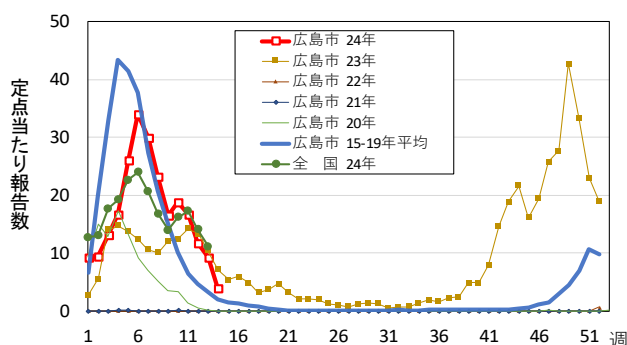


図1 インフルエンザの流行状況

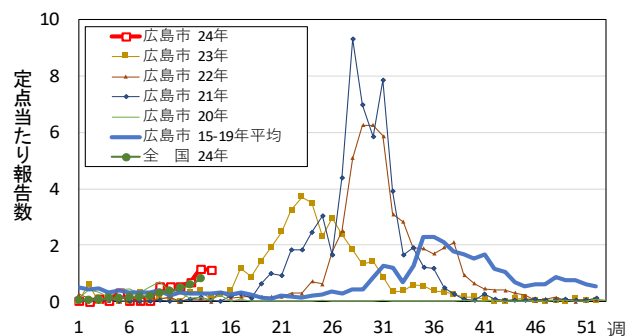


図2 RSウイルス感染症の流行状況

- 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、第6週（2月5日～11日）から減少が続いていたが、減少速度は鈍化しており、第14週はやや増加した。また、高齢者施設等での集団発生は継続して報告されており、注意が必要である。引き続き、基本的な感染予防対策を続けることが重要である。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は多い状況が続いており、第14週に定点当たり3.09人の報告があった。手洗いや咳エチケットの励行などの感染予防対策が重要である。
- 梅毒の今年の累計報告数は4月7日時点で38件（男性21件、女性17件）となり、昨年同時期67件（男性45件、女性22件）と比較して減少している。年代別の内訳としては、男性は20歳代から40歳代の幅広い年代に多く、女性は20歳代が12件（女性の71%）と多い。梅毒は、主に性的な接触により感染し、治療せずに放置すると、脳や心臓などに重大な病変を起こすことがあり、妊婦が感染すると流産、死産、先天梅毒を起こす可能性がある。感染予防と早期発見・早期治療が重要である。

### (3) 3月の1類～5類感染症（全数報告）患者発生数

- 1類感染症：なし
- 2類感染症：結核6件（患者：5件、潜在性結核：1件）
- 3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 2件
- 4類感染症：A型肝炎 1件、レジオネラ症 1件
- 5類感染症：カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 1件、急性脳炎 1件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 2件、ジアルジア症 1件、侵襲性肺炎球菌感染症 2件、梅毒 18件、バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1件、百日咳 1件

### (4) 今後の流行予測

RSウイルス感染症・・・【流行始まり】

インフルエンザ、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎・・・【流行中】

新型コロナウイルス感染症、梅毒・・・発生動向に注意が必要である。

## 2 検査情報

3月の検査結果判明分

臨床診断名	検出病原体	検体採取年月	患者数
インフルエンザ	B型インフルエンザウイルス	2024年2月	1人
感染性胃腸炎	ノロウイルス GII	2024年2月	1人
	*1 アデノウイルス 2型	2023年12月	1人
	*1 サボウイルス		
ヘルパンギーナ	*2 アデノウイルス 3型	2023年12月	1人
	*2 コクサッキーウイルス B2型		
流行性角結膜炎	アデノウイルス 8型	2023年11月	1人
	アデノウイルス 8型	2023年12月	1人
	アデノウイルス 37型	2024年2月	1人
	アデノウイルス 56型	2024年2月	2人
その他の呼吸器疾患（咽頭炎）	アデノウイルス 3型	2023年12月	1人
	ヒトコロナウイルス NL63	2024年2月	1人
	B型インフルエンザウイルス	2024年2月	1人
その他の呼吸器疾患（気管支炎）	RSウイルス	2024年1月	1人
その他の呼吸器疾患（上気道炎）	ライノウイルス	2024年1月	1人
その他の消化器疾患（腸重積症）	アデノウイルス 3型	2024年1月	1人
その他の疾患（敗血症）	ライノウイルス	2024年2月	1人

\*1～2：複数病原体検出例

16人の患者から12種類のウイルス18株が検出された。検出ウイルスの内訳は、アデノウイルス3型3株、アデノウイルス8型、同56型、B型インフルエンザウイルス、ライノウイルス各2株、RSウイルス、アデノウイルス2型、同37型、コクサッキーウイルスB2型、サボウイルス、ノロウイルスGII、ヒトコロナウイルスNL63各1株であった。

5類感染症定点情報  
(令和6年3月解析分)

1. 週報対象(第10週～第13週)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測	No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測
1	インフルエンザ		2,033	56.47		11	ヘルパンギーナ		2	0.08	
2	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)		378	10.50		12	流行性耳下腺炎		1	0.04	
3	RSウイルス感染症		67	2.91		13	急性出血性結膜炎		-	-	
4	咽頭結膜熱		64	2.79		14	流行性角結膜炎		23	2.89	
5	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		306	13.31		15	細菌性髄膜炎		-	-	
6	感染性胃腸炎		621	27.00		16	無菌性髄膜炎		-	-	
7	水痘		6	0.26		17	マイコプラズマ肺炎		1	0.14	
8	手足口病		34	1.48		18	クラミジア肺炎		-	-	
9	伝染性紅斑		-	-		19	感染性胃腸炎(ロタウイルス)		1	0.14	
10	突発性発しん		27	1.17							

2. 月報対象(3月)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり
1	性器クラミジア感染症		34	4.25
2	性器ヘルペスウイルス感染症		9	1.13
3	尖圭コンジローマ		4	0.50
4	淋菌感染症		7	0.88
5	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		19	2.71
6	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		-	-
7	薬剤耐性緑膿菌感染症		-	-

発生記号

前月と比較しておおむね1:2以上の増減		
前月と比較しておおむね1:1.5~2の増減		
前月と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減		
ほぼ横ばい(発生件数少数のものを含む)		

予測記号

流行始まり	
流行中	
流行終息傾向	
終息	

全数把握感染症報告数(令和6年3月分)

第10週～第13週(3月4日～3月31日)報告分

類型	疾患名	広島市		全国	
		報告数	累積	報告数	累積
一類	1 エボラ出血熱	-	-	-	-
	2 クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-
	3 痘そう	-	-	-	-
	4 南米出血熱	-	-	-	-
	5 ベスト	-	-	-	-
	6 マールブルグ病	-	-	-	-
	7 ラッサ熱	-	-	-	-
二類	8 急性灰白髄炎	-	-	-	-
	9 結核	6	19	1,169	3,358
	10 ジフテリア	-	-	-	-
	11 重症急性呼吸器症候群	-	-	-	-
	12 中東呼吸器症候群	-	-	-	-
	13 鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	-
	14 鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-	-
三類	15 コレラ	-	-	-	-
	16 細菌性赤痢	-	-	4	12
	17 腸管出血性大腸菌感染症	2	8	115	312
	18 腸チフス	-	-	3	6
	19 パラチフス	-	-	-	1
四類	20 E型肝炎	-	-	32	130
	21 ウエストナイル熱	-	-	-	-
	22 A型肝炎	1	1	9	23
	23 エキノコックス症	-	-	2	2
	24 黄熱	-	-	-	-
	25 オウム病	-	-	-	-
	26 オムスク出血熱	-	-	-	-
	27 回帰熱	-	-	-	1
	28 キャサヌル森林病	-	-	-	-
	29 Q熱	-	-	-	6
	30 狂犬病	-	-	-	-
	31 コクシジオイデス症	-	-	-	-
	32 エムボックス	-	-	1	10
	33 ジカウイルス感染症	-	-	-	-
	34 重症熱性血小板減少症候群	-	-	5	9
	35 腎症候性出血熱	-	-	-	-
	36 西部ウマ脳炎	-	-	-	-
	37 ダニ媒介脳炎	-	-	-	-
	38 炭疽	-	-	-	-
	39 チクングニア熱	-	-	-	-
	40 つつが虫病	-	-	5	58
	41 デング熱	-	-	16	39
	42 東部ウマ脳炎	-	-	-	-
	43 鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く。)	-	-	-	-
	44 ニバウイルス感染症	-	-	-	-
	45 日本紅斑熱	-	-	-	3
	46 日本脳炎	-	-	-	1
	47 ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-
	48 Bウイルス病	-	-	-	-
	49 鼻疽	-	-	-	-
	50 プルセラ症	-	-	-	-
	51 ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	-
	52 ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	-
	53 発しんチフス	-	-	-	-
	54 ポツリヌス症	-	-	-	-
	55 マラリア	-	-	1	5
	56 野兎病	-	-	-	-
	57 ライム病	-	-	-	-
	58 リッサウイルス感染症	-	-	-	-
	59 リフトバレー熱	-	-	-	-
	60 類鼻疽	-	-	-	-
	61 レジオネラ症	1	4	125	409
	62 レプトスピラ症	-	-	-	1
63 ロッキーマウンテン紅斑熱	-	-	-	-	
五類	64 アメーバ赤痢	-	-	48	129
	65 ウイルス性肝炎	-	1	21	43
	66 カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	1	1	133	431
	67 急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)	-	-	1	6
	68 急性脳炎	1	4	39	167
	69 クリプトスポリジウム症	-	-	4	6
	70 クロイツフェルト・ヤコブ病	-	1	15	47
	71 劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2	7	174	596
	72 後天性免疫不全症候群	-	-	65	233
	73 ジアルジア症	1	1	5	10
	74 侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	-	42	159
	75 侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	1	9
	76 侵襲性肺炎球菌感染症	2	5	177	673
	77 水痘(入院例に限る。)	-	-	41	106
	78 先天性風しん症候群	-	-	-	-
	79 梅毒	18	37	1,054	3,053
	80 播種性クリプトコックス症	-	1	22	51
	81 破傷風	-	-	5	17
	82 パンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	-
	83 パンコマイシン耐性腸球菌感染症	1	3	9	31
	84 百日咳	1	1	46	140
85 風しん	-	-	2	2	
86 麻しん	-	-	19	21	
87 薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-	-	